「落下する花」
太田 忠月・著　F0

夜叉は祖父の形見を、かけに大学で「月講」を研究していた。「月講」とは、死者が遺す奇蹟。月講には、その人の想いが残る。
その想いを読みとる特別な人間が「月読」夜叉は、月読と思いがけない出会いをする。
それは、憧れの桜月が遺した月講のもとで…月読から語られる桜月の想い。そこには謎が秘められていた。

「ハーニャの庭で」
どい かや　E913T

ロンのハーニャの住む家には、ちいさな庭がありました。冬にはつばき、春はスミレやボビーなどの花が咲き、様々な生きものが集まってきます。
季節の移り変わりとともに、ハーニャと周りの人々の生活がゆっくりと進み、ほのぼのとした気持ちになります。細部まで描かれた、美しい風景を見じたんオ作です。

「花言葉で花束づくり」
長畑 佳代・写真/撮影　627T

時々花を見ていると、ふと「この花言葉なんだ？」と考える事があります。かわいい花なのに悲しい花言葉を持っていたり、痛そうなとげを持っているのに優しい花言葉だったり…。この本を読んでいると、様々な花の写真と花言葉やその由来に触れさせます。
かわいい花たちの意外な花言葉をぜひ楽しみてください。

「ポットくんのおしり」
東木 大絵・文　E913T

植木鉢のポット君。ビヤシンスの球根をポット君に入れて、土を入れて水をあげて、花が咲くのを待つばかり…。ところが、上手くいきません。
なんとポット君のおしりには穴があいていたんです！土を入れても、水を注いでもその穴から出て行ってしまいます。困った。ポット君は花を咲かせることはできるのでしょうか!?

「バラ咲くじゅうたんのあるところ」
ルクサナ・カーン・作　E933H

バラ咲くじゅうたんのあるところ、それは絶対に爆弾がおちてこない場所。平和な天国。アフガニスタンの難民キャンプで暮らす少年は、機織りをうけてじゅうたん織りを習っている。少年の織るじゅうたんは、赤いバラの模様でいっぱいだ。彼は一人前の職人になって母さんと妹を養うこと。アフガン戦争が終わって何年もたつ。だけど戦争の傷あとは深い。

「わがままな木男」
オスカー・ワイルド・作　E933W

子どもたちのいない庭では、花もさかず、鳥たちもやってきません。くるのは雪と霜だけ。自分の庭であそぶ子どもたちを追い出した木男の庭はいつまでたっても春がきませんでした。ある日、子どもたちが庭にはいってくると鳥はさえずり花も美しくさきはじめます。
「いちばんきれいな花となれば、なんといっても子どもたちだなあ。」という木男の言葉が印象的です。

「イングリッシュガーデニング」
青木 純子・著　79673

花を触ると不思議と心が落ちつきます。この本は、そんな癒しをくれる草花を育てた経験を集積に感じられるよう、素敵なアレンジの方法をご紹介。
イングリッシュガーデニングに使う花や、ハーブを使って、部屋に飾ったり、日々の生活に花を感じてみてください。

「睡蓮が散るとき water Lily」
スザンナ・ジョーンズ・著　933S

高校教師の貴恵は、単調な生活にやり場のない空虚感を抱き、それは孤独感に変わっていく。一方、米国人のテルは、東洋人が理想の女性であると信じ、結婚相手を探すために、東京に来た。その二人が運命の糸に導かれるように出逢い、やがて互いの愛情が恐怖の結末に向かって、静かに回り始める。
睡蓮は、ゆらゆらと水面に浮かぶ花だから、この物語の色合いを表現するためのもの。
英国推理作家協会新人賞者の第二弾。心理サスペンスの傑作と評価された作品である。

「花のような女性（ひと）」
太田垣 晴子・著　470.4オ

"花のような～"というのは、女性へのほめ言葉。でも、花ってキレイだけじゃない。地味だけど、健気に咲いている花だってあるんです。そんな花の個性を、様々なタイプの女性で表現したのがこの本。
明るいひまわりやお淑やかな百合、さらにはトリカブトまで、さてどんな女性で表現されているでしょう？

「誕生花 ― わたしの花 あの人の花」
北脇 保次・著　627K

花には罪はないのです。花は悪くないのです。
だれが決めたのでしょうか、誕生花。
どうしてあるのでしょうか、花言葉。
もし、この本のページをめくってみて、あなたの、あの人の誕生花がその花言葉があなたのイメージと違っていたとしても、それは花のせいではありません。気軽にそばにおいてみてください。

「コスモス」
森山 京・作　K913M

タカシは花生の事が頭が見たくて夏休みの間、毎日水をやってきれいなコスモスを咲かせた。
しかし、そのコスモスを学校に持って行った日、すでに教室にはほかに立派なコスモスがかざってあり…。ほんの数ページで終わる話だが人を思いやる優しい気持ちがぎゅっとつまったお話。

「京都 花の咲く寺」
水野克比古・写真/文　185.9ミ

梅、桜、沙羅、萩、紅葉など京都の寺院を彩る四季の花が載った写真集です。美しい花の写真と寺院の解説があり、また、花の見頃の時期や寺院への行き方が周辺地図とともに掲載されていて、観光ガイドにもなっています。
ページをめくっていると、京都へ花を楽しむ旅に出たくなる……そんな一冊です。

「コイチとお花」
メアリ・ティー 作

きれいな花を見つけたコイチは、花の作り方を友達のイチイグマとイイグマに聞きますが、どれも失敗。困ったコイチは道端でお会ったロバに聞きましたが、ロバも知りません。でも、ロバは分からない事があると必ず行く場所があると言います。さてそれはどこなのでしょうか。
コイチは花を作ることができるかな？

flower

そっとおとどり
領の子一つ「花」

「そっとおとどけ」は、直方市立図書館の司書によるミニ新聞です。
"図書館を身近に感じ、本をもっと好きになってもらえたら…"という想いから生まれました。

そっとおとどけ

2007. 12月号 vol. 53

イベント・休館日のご案内

12月

※イベントの参加はすべて無料です。

《 場所：お話コーナー 》
1日(土) ぜっぱつ会（おはなし会） 14:00～
9日(日) きほうの箱（おはなし会） 14:00～
11日(火) 麦のこ（乳幼児向けおはなし会） 11:00～

《 場所：コメニティホール 》
8日(土) 土曜シアター 13:30開場 14:00上映
「ハリーポッターと賢者の石」 152分
15日(土) なのはな歌劇 14:00～
ブラックパネルシアター
23日(日) ママりんご（おはなし会） 14:00～

12月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

開館時間

火～土 10:00～19:00
日・祝 10:00～17:00

1月

《 場所：お話コーナー 》
8日(火) 麦のこ（乳幼児向けおはなし会） 11:00～
19日(土) からべ座（おはなし会） 14:00～
27日(日) 昔ばなし語ろう会（おはなし会） 14:00～

《 場所：コメニティホール 》
12日(土) 土曜シアター 13:30開場 14:00上映
「黒い情事」 117分

1月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

※ 太字は17時開館です
▒ はおやすみです

年末年始のお休みは、12/29～1/3までとなります。
12/15～12/20までに借りられた本の返却日は、全て1/4となります。
雑誌、ビデオ類は、12/22～12/27までに借りられると返却日が1/4となります。
貸出期間が少し長くなりますので、ぜひご来館下さい。

展示のご案内

〈一般室〉 冬の生活 12/1～12/25

お家で過ごす時間が増える寒い冬。
心地良い空間作りでお家時間が楽しくなるような本を紹介します。

〈児童室〉 クリスマス 11/29～12/25

クリスマスに向けて、冬やクリスマスのお話、パーティに役立つ本を展示します。

今月担当M司書のおすすめ図書

今年の冬は暖かいと言っても、冷え性には辛い季節となりました。いろいろな方法を試してもなかなか冷えが改善されない方におすすめの本を紹介します。

『温め薬人プログラム』 498.3イ
石原 結實・著

体が冷えるのは、血液が汚れているから。現代人の血液は、食べ過ぎのため老廃物がたまってドロドロに。まずは、朝食を抜いて血液の流れを良くしましょう。
ちょっと目からウロコの冷え改善プログラム。

『薬草茶でキレイになる！』
伊藤 翠・著 499.8イ

コーヒーや紅茶のカフェインは体を冷やします。ノンカフェインのお茶を飲んで水代謝をあげましょう。

カード更新のお知らせ

利用者カードの有効期間は3年間です。

カードNo. 00180000までの方がまもなく更新時期になります。
現在お持ちのカードと、現住所の確認ができる身分証明書（免許証、健康保険証、学校の名札など）をカウンターまでお持ち下さい。

先月のH司書からの質問

Q 鍋のおいしい季節となりましたが好きな鍋料理は何ですか？

A 家で食べる鍋で一番好きなのは、豆乳鍋です。最後にうどんを入れたり、薬味にゆずジュレを入れると最高です！

来月担当は
Y司書です♪

直方市立図書館
直方市山部301－11コメニティのおがた内
TEL:0949－25－2240
FAX:0949－23－3902
HP：http://www.yumenity.jp/library/library.html